リヤ る。 ア 京 ij 0 リカで建築教育を受けた彼は故に文化大革 3 は、 大学建築学部 現代中国建築界にあってまさにレ で 90 歳を超えた今も教鞭をとる -命時に ジェン ゥ であ ジ



され辛酸を舐めるが 建築学部を立 その

後清華大学に

写真80-2 吳先生近影

Wu Liangyong

9225)

たな中国の 席捲する ち上げ、 開発の 常にその先頭に立 地域主義的建築」 あり 方にも先鋭的な批判を続け、 つ てきた。 を標榜してきた。 近年 Ó 中国を

宅がこ が方形に配置された住居の原型である。 Hutong z を契機に大半が壊さ その吳先生が北京の都心に設計した名高い集合住 れて使わ や大変な人気で、 とは 「北京菊儿胡同 れ続けて 「四合院 いる。 ホテ n とい たが、 (Ju'er ル う中庭を囲 この伝統的な住居様式 などにも 運よく残 Hutong) ] コン h つ オリン で住ま バ た四合院 である ピッ ジ 3

は以下に集約される。 モデ 足を踏み させた都心型高密度集合住宅団 ル とし で ある 的 て計画さ な文脈の た私のその 屋根の形状も含め、 れた。 中に読み替え、 後の活動に 国際的に高く評価されてきたが、 地は 大きな影響を頂 19 平 L 面 9 的 1) 中国の地域主義的建築の な構成 0年に完成 から立体 U た。 した吳先生の 彼の主張 的に発展 ここに

ンド E ①多文化的な分析を行 スケ 求める 面 0) 両者に着目 0 プの文脈の中で地域建築のあり方を発見・ ではなく、 他の文化 U その持続可 デザ や現在にも求める。 1 ン 能性につい の発想を自 分の て分析する。 ②建築を統合的に分析 伝統や過去だ 展開する ③地域建築の科学的、 Ļ 都市やラ

THE PERSON 写真80-4 胡同の路地と中庭

郊外の

水辺に運よく見つかり、

その

墓石の前で

これ

までの

つ エ そし

口

· の父)

の墓地を探索することに

な サ

つ

胸に去来した。 激動の足跡を重ね合わせて、 頭を垂れるその姿を目の前に 思わず熱く て、

なる思

1)

写真80-3 胡同の日常

Architectes Internationale 948年創立 (UIA):

を得たが、

その後へ

IV

シン

キでお会い

する機会が

国際建築家連合

Û

A

を通じて吳先生

٤

知己

芸

あった。

て、彼が

か

つて師事したエ

IJ

Ĺ

ル

リカに渡って活躍的建築家で、後にアメ ·フィンランド Saarinen Gottlieb Eliel -の代表